

## 成績評価基準

	教科の科目	教科標準における目標（教科の細目の習得の程度）	評価方法	評価の配分	備考
学科	介護基礎（人間の尊厳と自立）	尊厳の保持、自立に向け・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念について知っている。	筆記試験	100	
	記入例	介護保険制度創設の背景と目的について知っている。	筆記試験		「社会の理解Ⅱ」と合わせて評価する
	介護基礎（社会の理解Ⅰ）	介護保険制度の概要について知っている。 介護保険制度における専門職の役割について知っている。	筆記試験 筆記試験		
	介護基礎（介護の基本Ⅰ）	介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等について知っている。	筆記試験	10	「介護の基本Ⅱ」と合わせて評価する
		個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。	筆記試験	10	
		介護福祉士の職業倫理について知っている。	筆記試験	10	
	介護基礎（コミュニケーション技術）	利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術について知っている。	筆記試験	25	
		援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出す方法について知っている。	筆記試験	25	
		利用者の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択しその活用方法について知っている。	筆記試験	25	
		状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化について知っている。	筆記試験	25	
	介護基礎（介護過程Ⅰ）	介護過程の目的、意義、展開等について知っている。	筆記試験	25	介護応用（介護過程Ⅱ）と合わせて評価する
		介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行うことを知っている。	筆記試験	25	
		チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種役割について知っている。	筆記試験	25	
	介護基礎（こころとからだのしくみⅠ）	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本を知っている。	筆記試験	5	「こころとからだのしくみⅡ」と合わせて評価する
		人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基本を知っている。	筆記試験	5	
	介護基礎（発達と老化の理解Ⅰ）	老化に伴う心理的・身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響について知っている。	筆記試験	20	介護応用（発達と老化の理解Ⅱ）と合わせて評価する
	介護基礎（認知症の理解Ⅰ）	認知症ケアの理念について知っている。	筆記試験	10	介護応用（認知症の理解Ⅱ）と合わせて評価する
認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を知っている。		筆記試験	10		
認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を知っている。		筆記試験	10		
介護基礎（障害の理解Ⅰ）	障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。	筆記試験	10	介護応用（障害の理解Ⅱ）と合わせて評価する	
	障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。	筆記試験	10		
	障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。	筆記試験	10		
介護応用（社会の理解Ⅱ）	生活と福祉について知っている。	筆記試験	20	「社会の理解Ⅰ」と合わせて評価する	
	社会保障制度の発達、体系、財源等について知っている。	筆記試験	20		
	障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等について知っている。	筆記試験	20		

	教科の科目	教科標準における目標（教科の細目の習得の程度）	評価方法	評価の配分	備考
学科		成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。	筆記試験	20	
	介護応用（介護の基本Ⅱ）	介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題について知っている。	筆記試験	20	「介護の基本Ⅰ」と合わせて評価する
		チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法について知っている。	筆記試験	20	
		リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保について知っている。	筆記試験	15	
		介護職員の健康管理と労働法規について知っている。	筆記試験	15	
	介護応用（介護過程Ⅱ）	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しについて知っている。	筆記試験	25	介護基礎（介護過程Ⅰ）と合わせて評価する
	介護応用（こころとかからだのしくみⅡ）	人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。	筆記試験	30	「こころとかからだのしくみⅠ」と合わせて評価する
		生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。	筆記試験	30	
		身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。	筆記試験	30	
	介護応用（発達と老化の理解Ⅱ）	発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。	筆記試験	20	介護基礎（発達と老化の理解Ⅰ）と合わせて評価する
		老年期の発達課題、心理的な課題（老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。	筆記試験	20	
		高齢者に多い症状、疾病等と支援の留意点について知っている。	筆記試験	20	
		保健・医療職種との連携ができるようになる。	筆記試験	20	
	介護応用（認知症の理解Ⅱ）	代表的な認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等の医学的知識について知っている。	筆記試験	30	介護基礎（認知症の理解Ⅰ）と合わせて評価する
		認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援について知っている。	筆記試験	30	
		地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。	筆記試験	10	
	介護応用（障害の理解Ⅱ）	様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。	筆記試験	30	介護基礎（障害の理解Ⅰ）と合わせて評価する
		障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。	筆記試験	30	
		地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。	筆記試験	10	
医療的ケア	医療の倫理及び保健医療制度とチーム医療について知っている。	筆記試験	10		
	安全に痰の吸引や経管栄養を提供する重要性やリスクマネジメントについて知っている。	筆記試験	10		
	清潔保持し感染予防について知っている。	筆記試験	10		
	バイタルサインにおける観察法やその見方について知っている。	筆記試験	10		
	人工呼吸器装着利用者に対する吸引の留意点について知っている。	筆記試験	15		
	吸引実施に伴う利用者の身体変化の確認、医療職への報告の重要性について知っている。	筆記試験	10		
	経管栄養が必要な利用者の状態を知っている。	筆記試験	10		
	経管栄養の実施に関する利用者とその家族の気持ちに添った対応を知っている。	筆記試験	10		
	経管栄養の実施の流れと注入中の留意点について知っている。	筆記試験	15		

	教科の科目	教科標準における目標（教科の細目の習得の程度）	評価方法	評価の配分	備考
	事例検討	施設・居住型実習における目的と目標の設定ができる。	観察	40	
		通所・小規模多機能型実習における目的と目標の設定ができる。	観察	30	
		訪問介護実習における目的と目標の設定ができる。	観察	30	
	介護事務	介護保険制度のしくみを知っている。	筆記試験	20	
		介護報酬の算定方法を知っている。	筆記試験	40	
		介護給付費明細書（介護レセプト）の作成ができる。	筆記試験	40	
	記入例 安全衛生	VDT作業の概要について知っていること。	レポート提出	40	
		産業安全及び労働衛生について大体知っていること。	観察	20	
		安全衛生管理、安全衛生関係法規の概要について大体知っていること。	観察	20	
		具体的災害防止対策について大体知っていること。	観察	20	
実技	介護実技基礎（コミュニケーション技術）	利用者、家族とのコミュニケーション構築技術を理解している。	観察	35	
		利用者の要求、ニーズの引き出し方を理解している。	観察	35	
		認知症の方に関わる際の留意点を理解している。	観察	30	
	介護実技基礎（生活支援技術Ⅰ）	生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。	実技試験	25	
		ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。	実技試験	25	介護実技応用（生活支援技術Ⅱ）と合わせて評価する
		居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。	実技試験	25	
		「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「家事援助」のそれぞれについて、介護技術の基本を理解している。	実技試験	25	
	介護実技基礎（こころとからだのしくみⅠ）	利用者の心身の状態に合わせた基本的介護技術の展開方法が理解できる。	観察	10	
	介護実技応用（生活支援技術Ⅱ）	排泄、尿失禁についての基本的な介護を行うことができる。	実技試験	20	介護実技基礎（生活支援技術Ⅰ）と合わせて評価する
		障がいに合わせて移動、歩行の介助方法が実施できる。	実技試験	20	
		衣服の着脱における留意点を考慮した介護を行うことができる。	実技試験	20	
		環境整備、ベッドメイキング、睡眠の援助について理解できる。	実技試験	20	
		利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。	実技試験	20	
	介護実技応用（介護過程Ⅱ）	アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等の見直しができる。	観察	100	
	介護実技応用（介護過程Ⅲ）	知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた歩行の介助を実施して、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。	実技試験	20	
知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた食事介助を実施して、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。		実技試験	20		
知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた車いすの自走と口腔ケアの介護を実施して、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。		実技試験	20		
知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた衣服の着脱の介助を実施して、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。		実技試験	20		

	教科の科目	教科標準における目標（教科の細目の習得の程度）	評価方法	評価の配分	備考
実技		知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた排泄の介助を実施して、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。	実技試験	20	介護実技基礎（こころとからだのしくみⅠと合わせて評価する）
	介護実技応用（こころとからだのしくみⅡ）	身体の仕組み、心理・認知機能などを踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携の留意点を理解し、移動・移乗の介助ができる。	実技試験	20	
		身体の仕組み、心理・認知機能などを踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携の留意点を理解し、食事の介助ができる。	実技試験	15	
		身体の仕組み、心理・認知機能などを踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携の留意点を理解し、入浴・清潔保持の介助ができる。	実技試験	15	
		身体の仕組み、心理・認知機能などを踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携の留意点を理解し、排泄の介助ができる。	実技試験	20	
		身体の仕組み、心理・認知機能などを踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携の留意点を理解し、着脱、整容、口腔清潔の介助ができる。	実技試験	10	
		身体の仕組み、心理・認知機能などを踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携の留意点を理解し、睡眠・終末期の介助ができる。	実技試験	10	
	医療的ケア演習	喀痰の吸引をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。	実技試験	45	
		経管栄養をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。	実技試験	45	
		救急蘇生法をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。	実技試験	10	
介護技術	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ、こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ、介護課程Ⅱ・Ⅲ、医療的ケアの実技が概ねできる。	観察	100		
パソコン実習	文字入力が10分間で300文字程度入力できる。	課題作成	20		
	ワープロソフトを用いて基本的な文書を指示どおりに作成できる。（日本語ワープロ3級程度）	課題作成	40		
	表計算ソフトを用いて基本的な作表や数式・関数を使うことができる。（表計算3級程度）	課題作成	40		
施設実習	実習施設の概要を理解し、取り組みと特徴を知る。	観察			
	基本的介護技術、PT・OT・STによる機能訓練を見学する。	観察			
	利用者に対して前向きにコミュニケーションをとることができる。	観察			
記入例 安全衛生作業法	安全衛生作業ができること。	観察	80		
	救急処置ができること。	観察	20		